

祖母から教えてもらったこと

指宿市立山川中学校 一年 岩崎いわさき 詩織しおり

キュツ。わたしはいつも通り、じゃ口をしめた。必要な時以外、水をだしっぱなしにしないよう、心がけている。なぜかというところ、祖母がいつも口ぐせのように言っている言葉を思い出すからだ。

「だしっぱなしにしたらだめだよ。水はとても大切なものなんだから。」

この言葉を小さい頃から何百回と聞いてきたので、今ではもう、じゃ口をしめるということは習慣づいている。わたしは、この行為は当たり前だと思っていたし、みんなこうしているだろう、と思っていた。

わたしは五年生の時に、ふるさと探検隊という、友達とだけで三泊四日生活をする、行事に参加した。わたしは友達と寝泊まりするのは初めてだったので、とても楽しみにしていた。

そして、二日目の夜、歯みがきをしている

と、同じ班の男子が水を出しっぱなしにしながら歯をみがいているのが目についた。水がジャー、ジャー、と勢いよく音を立てながら流れていく。この人は水を出しっぱなしにしていい、と思っっているのだろうか。まったく。水はとても大切なものなのに。と思いながらじゃ口をしめた。すると、その男子が「もしかして、もったいない、と思ったの。うわ、おばちゃんみたい。」

わたしは「えっ、わたし変なことしたかな。」と思った。横にいた友達を見ると、二人は顔を見合わせたり、クスクス笑ったりしている。わたしは急にはずかしくなってしまった。自分あたり前のことをしているつもりでいたのに、みんなから見れば、「おばちゃんみたい」と思われていたなんて。みんなは、水を出しっぱなしにするのがふつうなんだ。もう、何があたり前でふつうなかがわからなくなってきた。どれが良いことで悪いことなのか。そんな時、ふと思いだしたのは、祖

母がいつも言っている言葉だった。

「水はとても大切なものなんだから。」

そうだ。水を出しっぱなしにしてはいけない。それは、決して悪いことでもはずかしいことでもない。これが当たり前前でふつうなのだ。

わたしは大きく深呼吸をして考えた。祖母は何を思って、あの言葉を口ぐせのように言うのだろうか。祖母の言葉には、どんな意味がこめられているのか。そして、次はわたしが、祖母がいつも言っている水への想いを伝える番。今、みんなに伝えるんだ。わたしはまっすぐ前を見て、

「何を言っているの。水はとても大切なものなんだよ。出しっぱなしにしていいわけないでしょう。子どももおばちゃんも関係ない。これはみんなが気をつけないといけないことなの。」

言い終えたあと、周りを見ると、男子はぽかんと口を開け、友達はびっくりしたような顔でわたしを見ている。少し言いすぎたのか

な、と想ったが、それはそれでいいと想った。その男子が、次から水を大切なものだと思い、出しっぱなしにしないようにしてくれれば。それに、言い終えた後、なんだかとてもスカツとしたし、気分が良かった。その後、歯みがきをして、テントに戻った。

「水」とは、生き物には欠かせないものだ。水が無いと、生きていけないくらい大切なものなのだ。そんな大切な水を出しっぱなしにしたり、無だに水を使うことは、決してやってはいけないことだと思う。そのためには、水はとても大切で必要なもの、ということに気づき、さらに、自分は何ができるかを考えて、実行しなければならぬ。そして、じゃ口をひねれば、きれいで安全でおいしい、貴重な水が手に入る。それは、とても幸せなことなのだ。わたしは常に祖母の言葉を心に入れて、いつ、どんな状況でも、祖母の言葉を思い出し、水を大切に扱い、出しっぱなしにしないように心がけようと思う。